

2. 交差点実態調査の概要

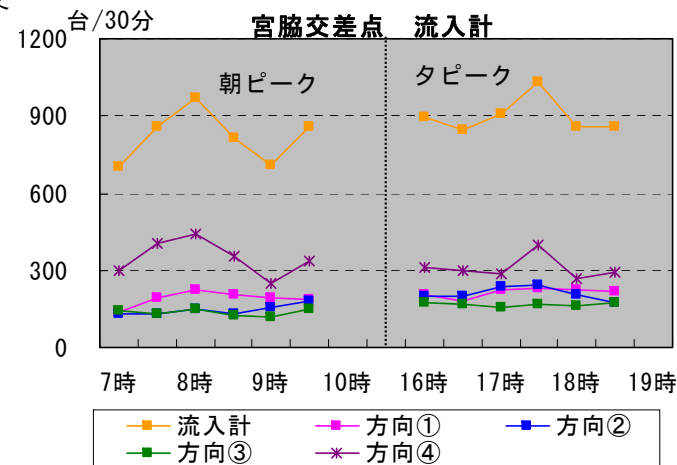
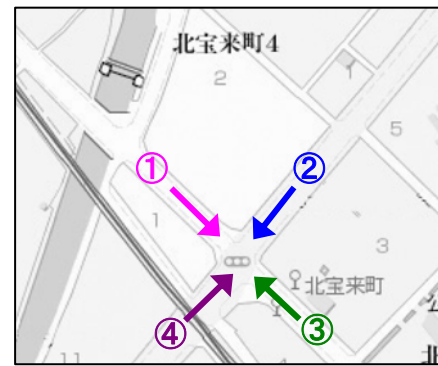
2-1 交通量カウント調査

(1) 断面流入量

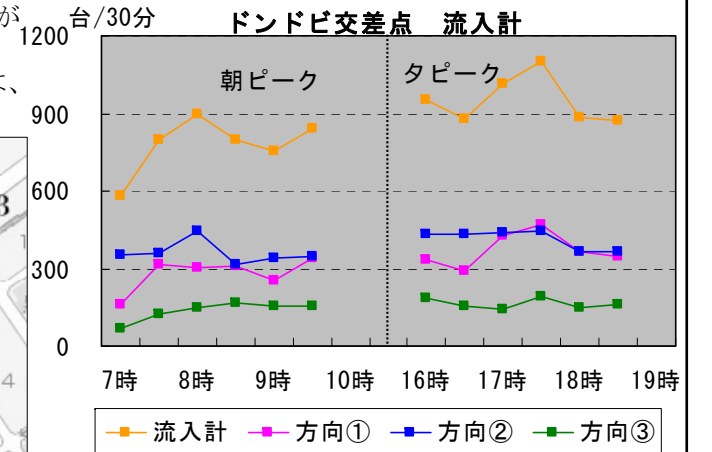
調査対象交差点での流入交通量について整理をした。

- ・タピークの交通量の方が朝ピークよりも上回る交差点が多い。
- ・周辺部に位置するワールドプラザ前、片山、今治IC入口の各交差点では、朝ピーク時では7時台、宮脇、ドンドビ交差点では8時前後にピークがみられ交通の混雑が周辺部から都心部に時間を経て移っていることが考えられる。

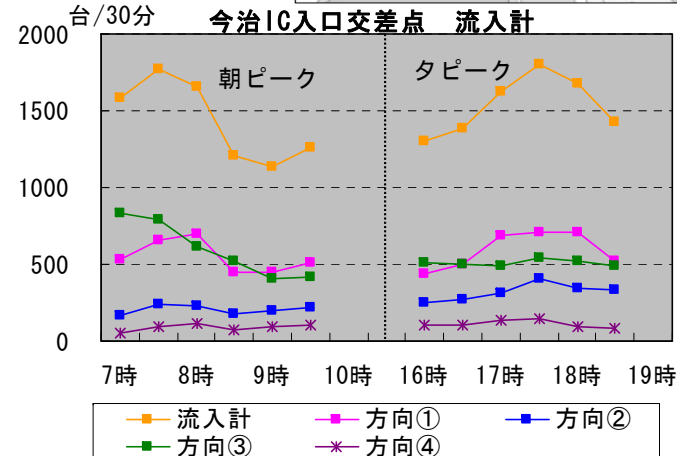
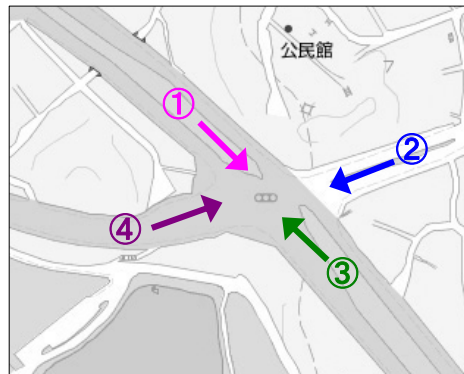
- ・④方向からの流入が最も多い。他方向の流入は同程度の交通量で交通の輻輳傾向が強い。



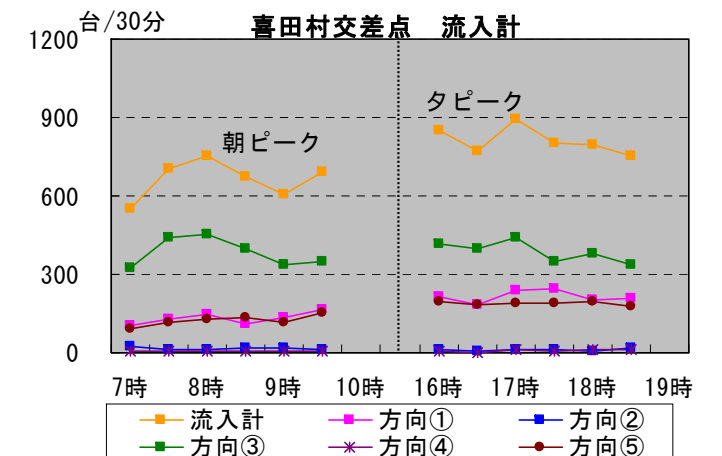
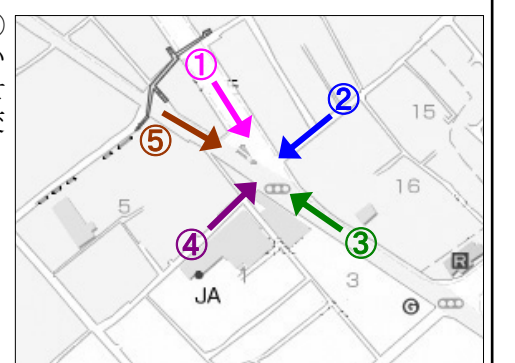
- ・①②方向が主交通となっている。
- ・タピークの17時台に流入交通量が突出している。
- ・②方向からの流入がタピークでは、ほぼ一定となっている。



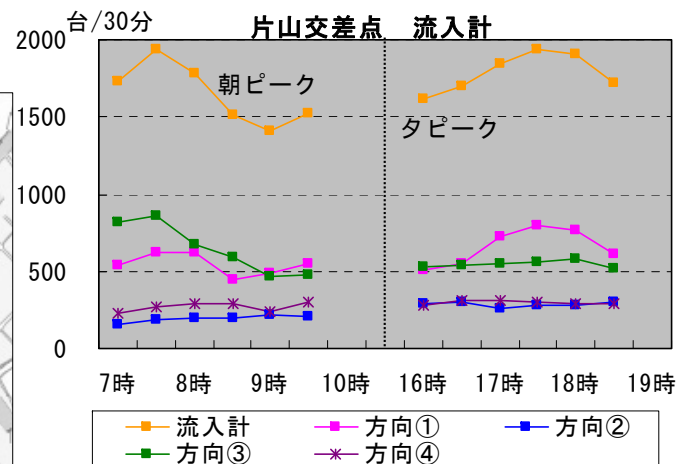
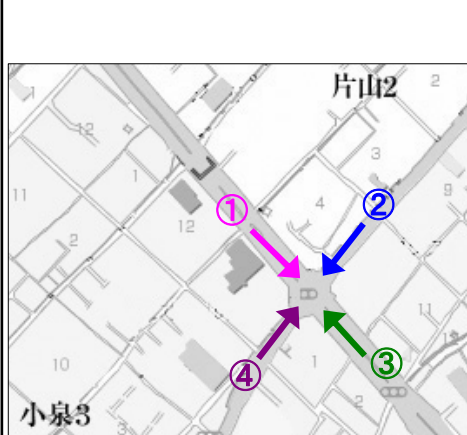
- ・①③方向が主交通となっているが、タピークではショッピングセンターもあるため②も多い。
- ・朝タピークの傾向が明確に表れている。



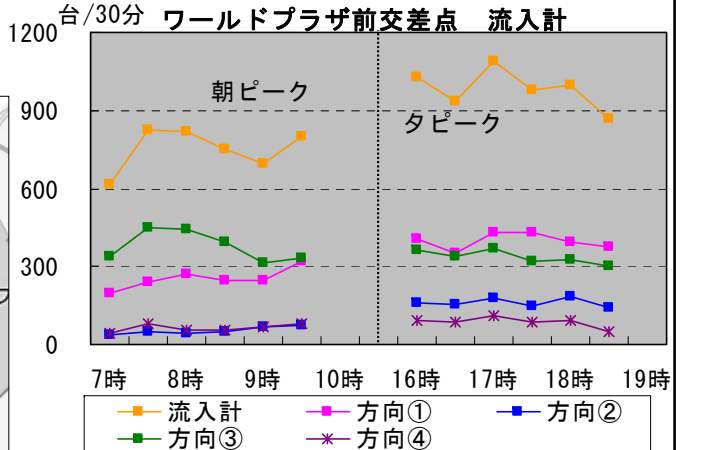
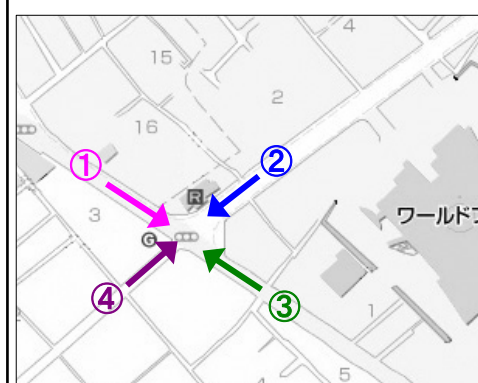
- ・③方向が主交通で、①⑤方向が合流しているため、これを合わせるとほぼ③程度の交通量となっている。
- ・17時前後で交通量がピークとなっている。



- ・①③方向が主交通、②④方向はピーク時でも交通量が平均している。

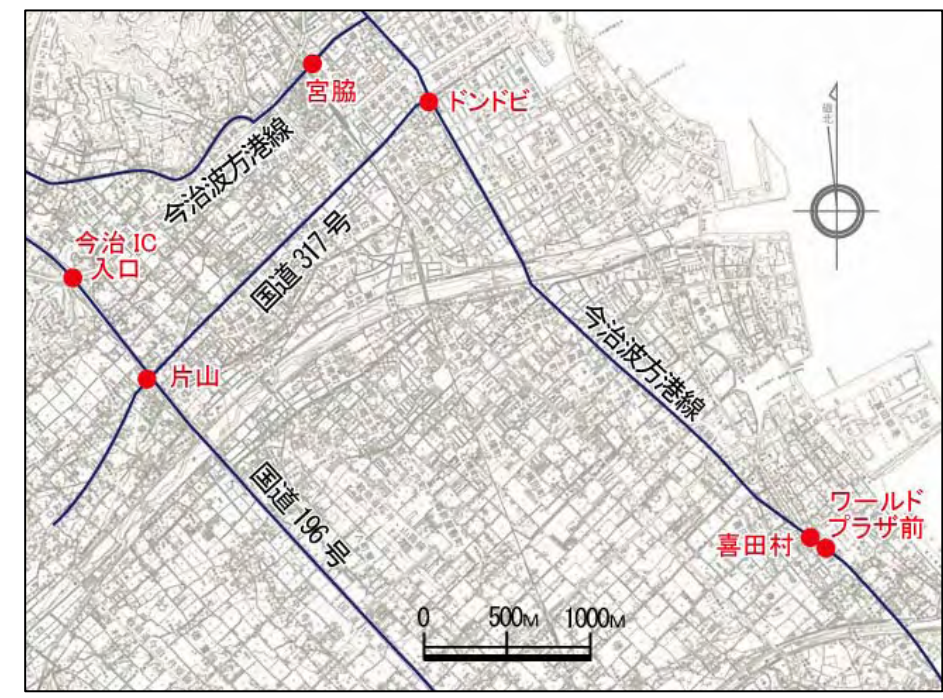


- ・①③が主交通、特に朝ピークでは都心方向となる③が突出。
- ・朝ピークに比べタピークでは②④方向の交通量が比較的多い。



(2) 方向別交通量

従方向の交通が少なく、主交通の流動が明確な喜田村交差点を除く5交差点について、交通量の多いタピーク 17 時台の方向別交通量を整理した。



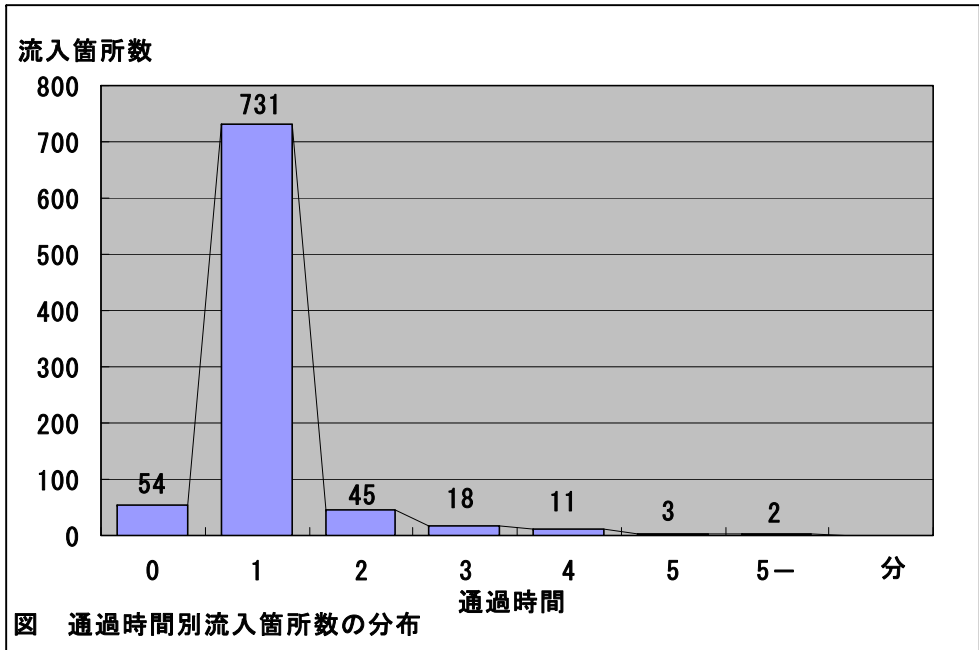
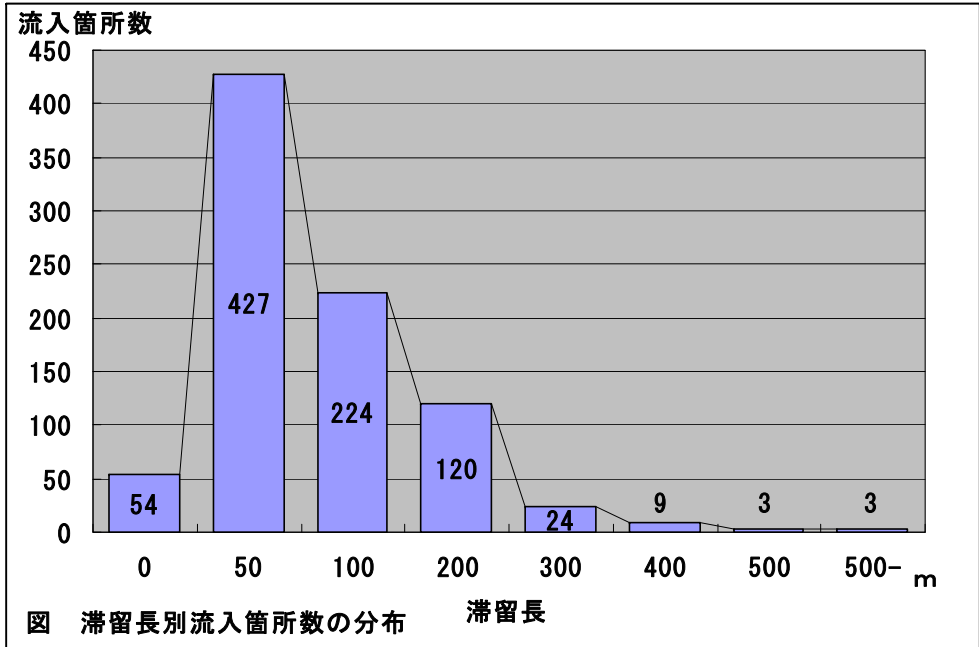
宮脇交差点	ドンドビ交差点
・今治 I C 方向から波方方向へ 298 台/h、波方方向から今治 I C 方向へ 248 台/h と右左折交通が多くなっている。 ・歩行者等の安全性のため歩車分離信号であることから、自動車交通の処理能力の低下と右折交通と合まって混雑が発生しているものと考えられる。 単位：台/h	・歩行者、自転車の安全性、利便性の面からスクランブル交差点となっている。 ・片山方向からの交通は蒼社川方向へ 204 台/h で南光坊西方向への 130 台/h を上回る。 ・南光坊西方向、蒼社川方向からは、直進交通が総じて多い。 単位：台/h
片山交差点	ワールドプラザ前交差点
・南北方向では北からの流入、流出が反対車線と比べ多い。 ・今治駅及び玉川町方向からの流入は直進が最も多いものの右折交通も多く、交通が輻輳しており混雑の原因となっている。 単位：台/h	・ワールドプラザ方向からの流入では右折が 130 台/h と直進交通の 122 台/h を上回っている。 ・他の方向では、直進交通が圧倒的に多いことから、この右折交通と、喜田村交差点との近接が混雑の原因と考えられる。 単位：台/h

2-2 渋滞・滞留長調査

渋滞・滞留長調査の結果を踏まえ、滞留長及び通過時間について整理した。

(1) 滞留長、通過時間の発生分布

- ・全調査箇所の滞留長、通過時間分布をみると、滞留長では 0～50mが大半を占め、通過時間もほぼ 1 分であることから、ほとんどが 1 回の信号待ちで通過が可能と考えられる。
- ・通過時間 4 分以上（概ね信号待ち 2 回以上）が出現したのは、すべての交差点、方向を合わせても 16 回とその割合は少ない。



渋滞長

進行方向の信号が青から赤に変わると信号待ち車両が後方に並んでいく。再び信号が赤から青に変わった際の最後尾の車両に着目し、青信号に変わっても通過できず再び停車した際の停止線までの距離。

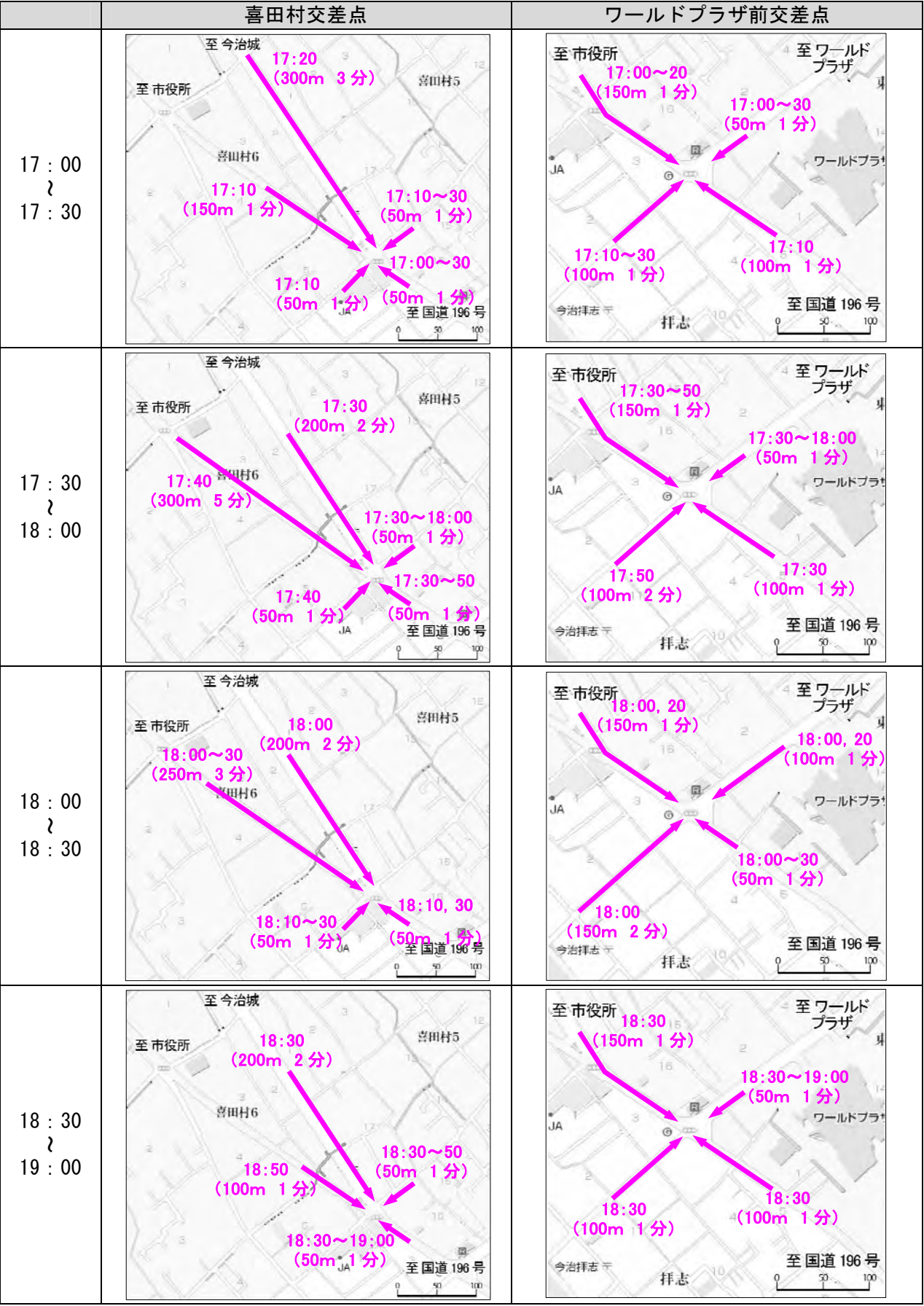
滞留長

進行方向の信号が青から赤に変わると信号待ち車両が後方に並んでいく。再び信号が赤から青に変わった際の最後尾の車両と停止線までの距離。

(2) 各交差点別滞留長の状況

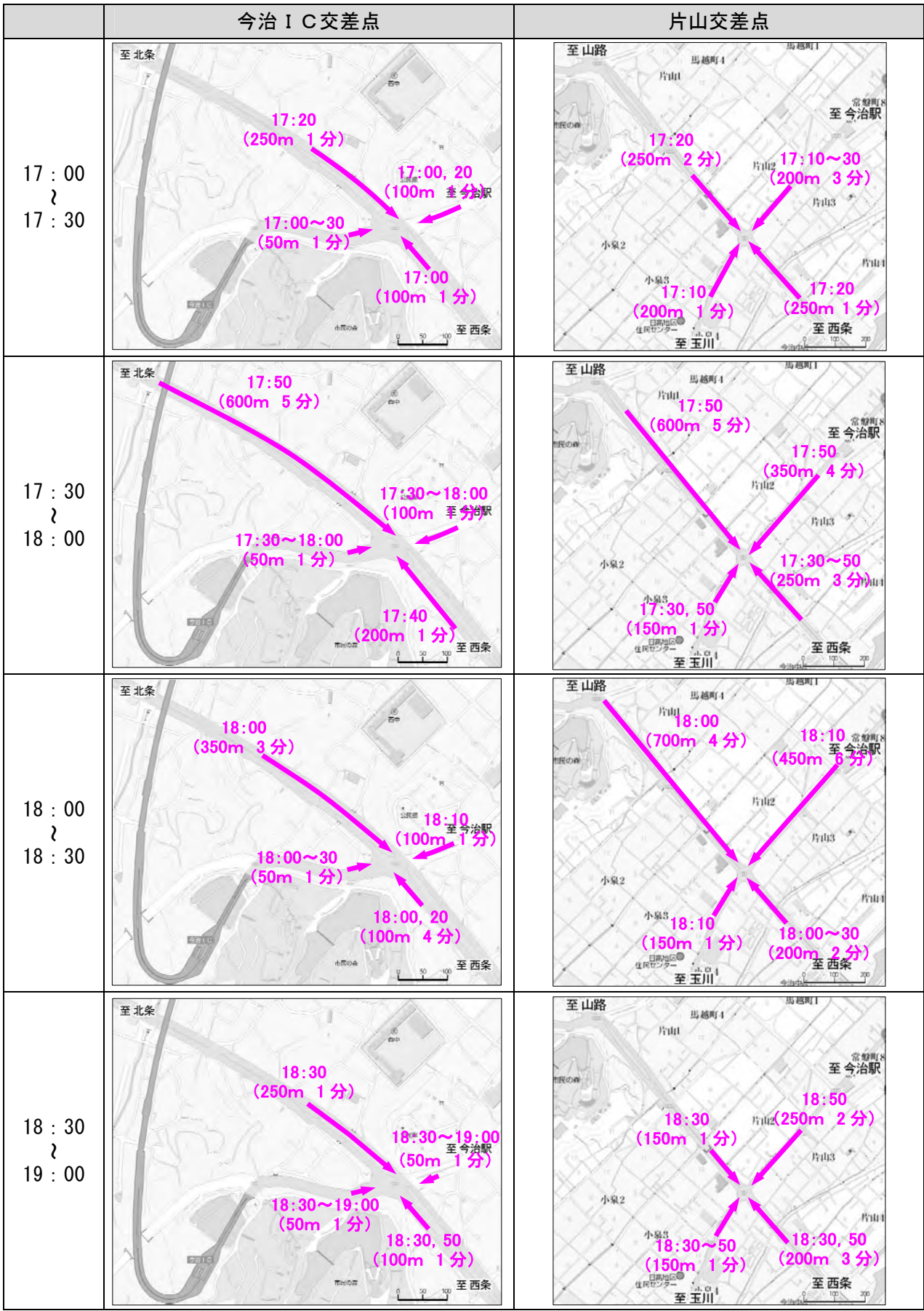
●喜田村・ワールドプラザ前交差点

- ・喜田村交差点とワールドプラザ前交差点が近接しているため、夕ピークの周辺部方向（南行き）で 17～19 時の 2 時間で滞留が連続的にワールドプラザ前から喜田村交差点へつながり、さらにその後方へと続いている。



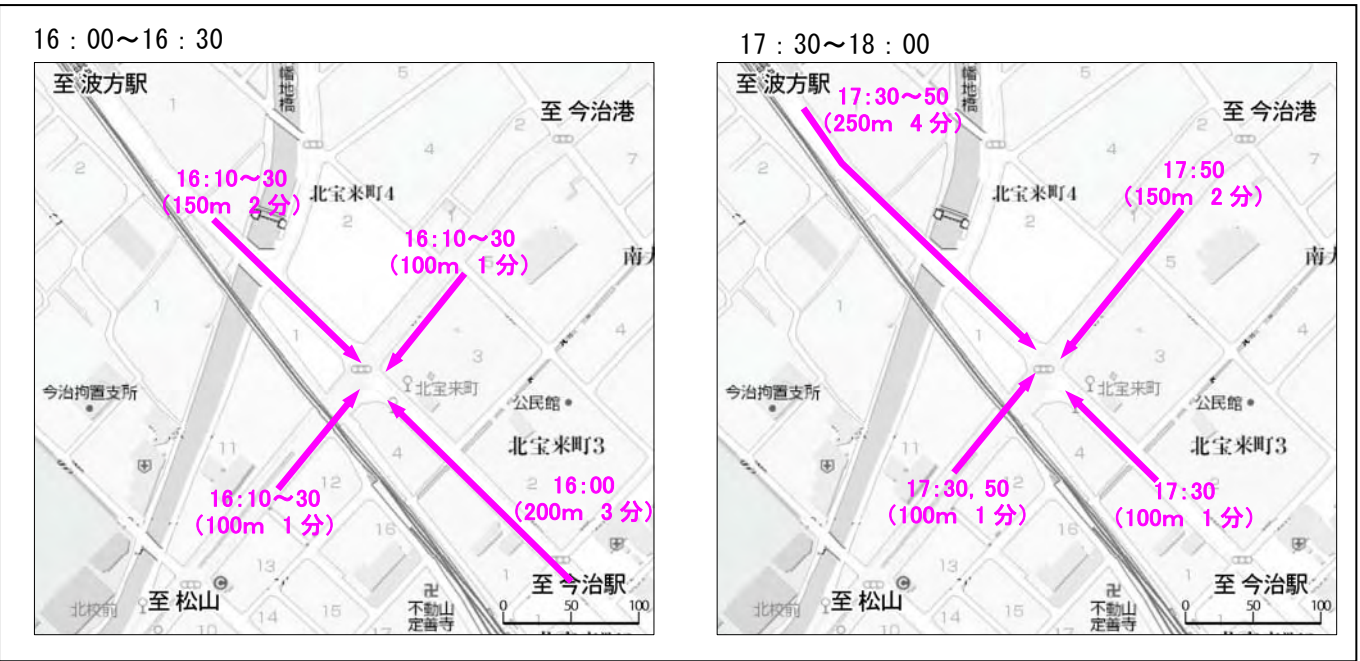
●今治 I C・片山交差点

- ・今治 I C 交差点では、17：50 に最大となる 600m の滞留長が出現している。
- ・この交通が片山交差点に流入し、片山交差点での北方向の滞留長が最大の 700m となり、今治 I C 交差点にまで及んでいる。
- ・この時、片山交差点では今治駅方向からの滞留長も最大となる 450m となっており、交通の輻輳が伺える。



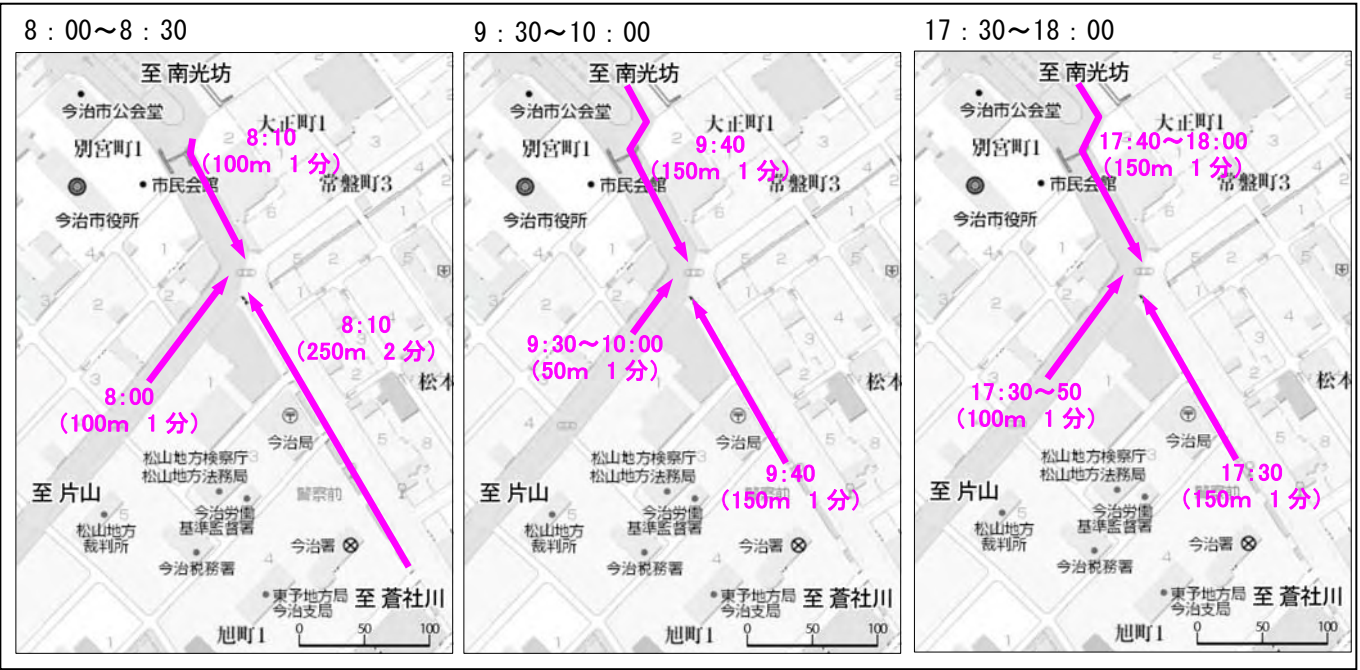
●宮脇交差点

- ・宮脇交差点では、北側からの交通により 17：30～50 まで連続して最大滞留長となる 250m が出現している。
- ・南側から 16：00 に 200m となっているが 10 分間のみで北側のような混雑がない。



●ドンドビ交差点

- ・ドンドビ交差点では 8：10 に南側からの 250m の最大滞留長が発生している。
- ・ロータリーまで滞留が及んだ時間は、朝ピークで 9：40、夕ピークで 17：40～18：00 でロータリーへの影響は少ないと考えられる。

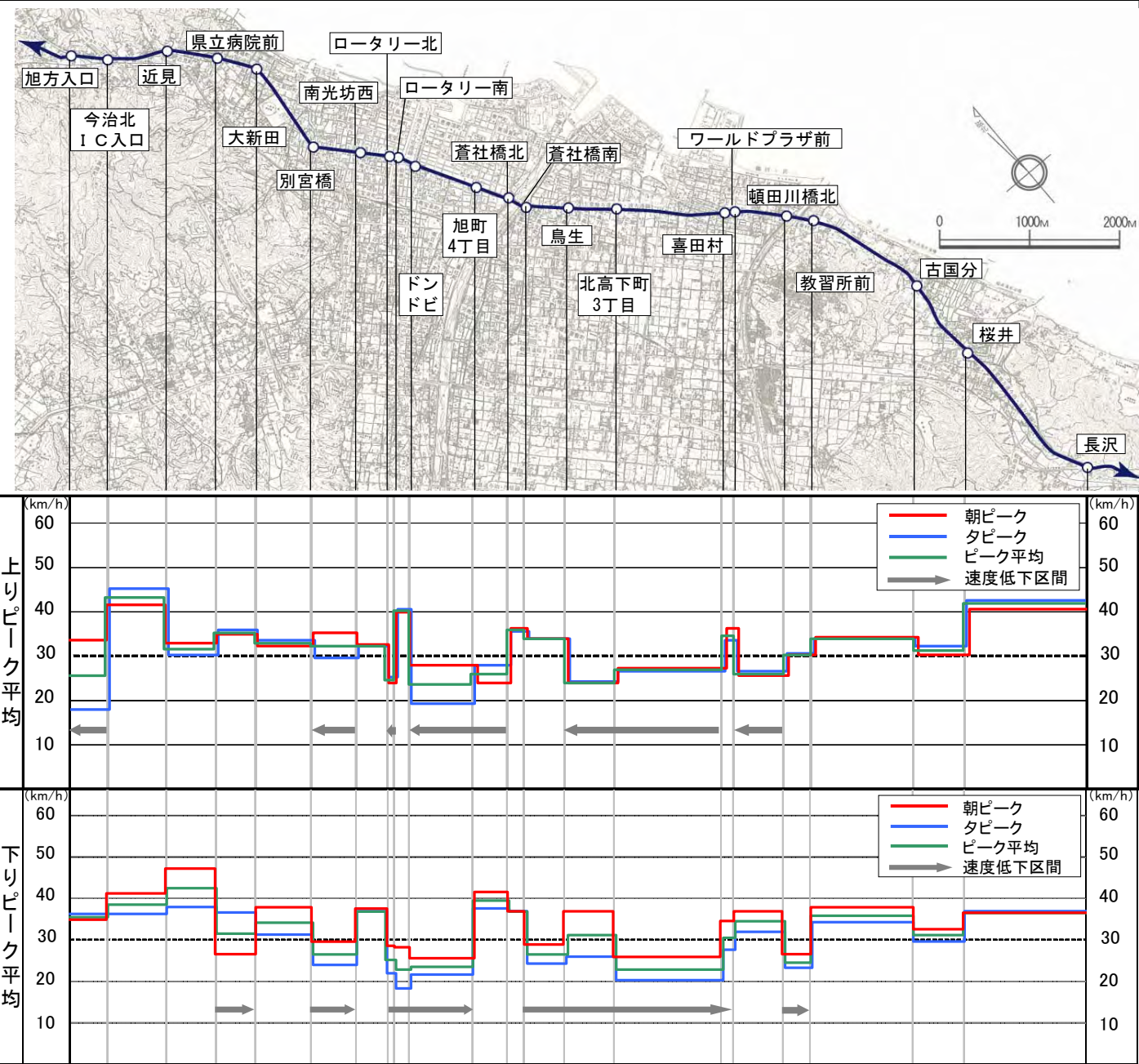


2-3 旅行速度調査

(1) 今治波方港線ルート

- ・都心部を通過することもあるため、総じて旅行速度は低い。朝ピークと比べ夕ピークの方が全体として低い区間が見られる。
- ・上りではロータリー前～頓田川橋北で朝ピーク、夕ピークともに 30km/h を下回る区間が多い。
- ・下りでは、ワールドプラザ前から蒼社橋南まで連続して 30km/h を下回るほか、教習所前及び旭町 4 丁目から大新田までの区間で断続的に速度低下を生じている。

【今治波方港線ルート】



(2) 国道 196 号ルート

- ・都心部を通過する今治波方港線ルートに比べ郊外部を通過することから、比較的旅行速度が高い。
- ・しかし、上り下りともに、片山交差点がボトルネックとなっており、特に下り方向では前後区間と比べて速度低下が著しい。
- ・また松木交差点から八町西 5 丁目交差点間で夕ピークにのみ速度低下が見られる。

【国道196号ルート】

